

(様式第9)

鹿大医歯病総第713号  
平成25年10月4日

九州厚生局長 殿

鹿児島大学病院長  
熊本 一 郎

鹿児島大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3の規定に基づき、平成24年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	166人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法  
→ 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績  
→ 別紙参照(様式第13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	195人	263人	405.9人	看護補助者	49人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	100人	35人	130.5人	理学療法士	12人	臨床検査技師	46人
薬剤師	42人	3人	45.0人	作業療法士	5人	衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0人	視能訓練士	6人	その他	6人
助産師	36人	1人	36.8人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	580人	25人	600.5人	臨床工学技士	15人	医療社会事業従事者	0人
准看護師	0人	0人	0人	栄養士	0人	その他の技術員	24人
歯科衛生士	9人	7人	16.0人	歯科技工士	5人	事務職員	159人
管理栄養士	4人	6人	10.0人	診療放射線技師	36人	その他の職員	45人

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。
- 8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	530.1人	23.9人	554.0人
1日当たり平均外来患者数	847.7人	399.9人	1247.5人
1日当たり平均調剤数	1224剤		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。





R









(様式第10)

### 高度の医療の提供の実績

#### 3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要 該当なし			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。





## 高度の医療の提供の実績

## 4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	77人	・膿疱性乾癬	13人
・多発性硬化症	55人	・広範脊柱管狭窄症	17人
・重症筋無力症	90人	・原発性胆汁性肝硬変	17人
・全身性エリテマトーデス	292人	・重症急性膵炎	3人
・スモン	0人	・特発性大腿骨頭壊死症	65人
・再生不良性貧血	43人	・混合性結合組織病	38人
・サルコイドーシス	105人	・原発性免疫不全症候群	11人
・筋萎縮性側索硬化症	16人	・特発性間質性肺炎	17人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	209人	・網膜色素変性症	72人
・特発性血小板減少性紫斑病	60人	・プリオン病	5人
・結節性動脈周囲炎	35人	・肺動脈性肺高血圧症	20人
・潰瘍性大腸炎	50人	・神経線維腫症	46人
・大動脈炎症候群	28人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	18人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	5人
・天疱瘡	17人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	11人
・脊髄小脳変性症	53人	・ライソゾーム病	10人
・クローン病	37人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	4人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1人
・悪性関節リウマチ	7人	・脊髄性筋萎縮症	2人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	52人	・球脊髄性筋萎縮症	3人
・アミロイドーシス	9人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	13人
・後縦靭帯骨化症	68人	・肥大型心筋症	7人
・ハンチントン病	0人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウイルス動脈輪閉塞症)	26人	・ミトコンドリア病	16人
・ウェゲナー肉芽腫症	9人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	2人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	46人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	14人	・黄色靭帯骨化症	4人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	2人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	200人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。



(様式第10)

### 高度の医療の提供の実績

#### 5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・ 該当なし	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

#### 6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	210回
部 検 の 状 況	部検症例数 33例 / 部検率 19.80%



## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
1	難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究	坪内 博仁	消化器内科	54,000,000	補委 厚生労働省
2	難治性炎症性腸管障害に関する調査研究	坪内 博仁 (分担)	消化器内科	1,000,000	補委 厚生労働省
3	IgG4関連疾患に関する研究	坪内 博仁 (分担)	消化器内科	1,100,000	補委 厚生労働省
4	ウイルス性肝炎からの発がん及び肝がん再発の抑制に関する研究	坪内 博仁 (分担)	消化器内科	1,500,000	補委 厚生労働省
5	B型肝炎ウイルスe抗体陽性無症候性キャリアの長期予後に関する検討	坪内 博仁 (分担)	消化器内科	1,000,000	補委 厚生労働省
6	難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究	井戸 章雄 (分担)	消化器内科	2,000,000	補委 厚生労働省
7	ウイルス性肝炎における最新の治療法の標準化を目指す研究	井戸 章雄 (分担)	消化器内科	2,000,000	補委 厚生労働省
8	ウイルス性肝疾患に対する分子標的治療創薬に関する研究	宇都 浩文 (分担)	消化器内科	2,000,000	補委 厚生労働省
9	B型肝炎ウイルスに対する新規逆転写酵素阻害剤テノホビルの有効性・安全性に関する検討	宇都 浩文 (分担)	消化器内科	2,000,000	補委 厚生労働省
10	わが国における飲酒の実態把握およびアルコールに関連する生活習慣病とその対策に関する総合的研究	宇都 浩文 (分担)	消化器内科	900,000	補委 厚生労働省
11	C型肝炎ウイルスの持続感染に関与するウイルス蛋白の新しい分子機構の解明	坪内 博仁	消化器内科	2,900,000	補委 日本学術振興会
12	プロテオミクスを用いた難治性消化器疾患の病態解明と新規診断・治療法の確立	坪内 博仁	消化器内科	8,300,000	補委 日本学術振興会
13	遺伝子改変動物を用いた炎症性肝発癌におけるオステオアクチビンの役割の解析	井戸 章雄	消化器内科	700,000	補委 日本学術振興会
14	非アルコール性脂肪肝疾患におけるキナーゼ断片ペプチドを介した高血圧の関与	宇都 浩文	消化器内科	1,100,000	補委 日本学術振興会
15	出水地区における肝炎ウイルス暴露歴の実態解明	坪内 博仁	消化器内科	5,000,000	補委 出水市病院事業
16	生活習慣病が消化器疾患や腎疾患の病態進展に及ぼす影響に関する研究	坪内 博仁	消化器内科	2,000,000	補委 国民健康保険高原病院
17	本邦オリジナルの遺伝性神経3疾患の分子生物学的研究	大窪 隆一	神経内科	900,000	補委 日本学術振興会
18	わが国で発見された感覚障害を伴う家族制運動ニューロン病の海外学術調査と病態解明	高嶋 博 (分担)	神経内科	300,000	補委 日本学術振興会
19	運動失調症に関する調査研究	高嶋 博	神経内科	1,500,000	補委 厚生労働省
20	重症度別治療指針作成に資すHAMの新規バイオマーカー同定と病因細胞を標的とする新規治療法の開発	高嶋 博	神経内科	2,000,000	補委 厚生労働省
21	スモンに関する調査研究	高嶋 博	神経内科	500,000	補委 厚生労働省
22	次世代遺伝子解析技術を用いた希少難治性疾患の原因究明及び病態解明に関する研究	高嶋 博	神経内科	90,000,000	補委 厚生労働省
23	難治性神経因性疼痛の基礎疾患の解明と診断・治療精度を向上させるための研究	高嶋 博	神経内科	800,000	補委 厚生労働省

小計 23

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
24	ペスレミアオパチーとその類縁疾患の実態調査	樋口 逸郎	神経内科	2,000,000	補委 厚生労働省
25	免疫性神経疾患に関する調査研究	渡邊 修	神経内科	950,000	補委 厚生労働省
26	Isaacs症候群の診断、疫学および病態解明に関する研究	渡邊 修	神経内科	5,000,000	補委 厚生労働省
27	次世代遺伝子解析技術を用いた希少難治性疾患の原因究明及び病態解明に関する研究	松浦 英治	神経内科	3,000,000	補委 厚生労働省
28	難治性ニューロパチーの診断技術と治療法の開発に関する研究	高嶋 博	神経内科	900,000	補委 国立精神・神経センター
29	筋ジストロフィーおよびその関連疾患の分子病態解明、診断法確立と薬物治療の開発に関する研究	樋口 逸郎	神経内科	10,000,000	補委 国立精神・神経センター
30	呼吸器系免疫アレルギー疾患におけるBLT2シグナルの役割	井上 博雅	呼吸器内科	6,100,000	補委 日本学術振興会
31	重症喘息の分子機能解明と新治療標的の探索	井上 博雅	呼吸器内科	2,800,000	補委 日本学術振興会
32	難治性喘息に対する新規抗体療法の開発	井上 博雅	呼吸器内科	1,100,000	補委 日本学術振興会
33	間質性肺炎におけるアンジオポエチン様因子の役割の検討	渡辺 正樹	呼吸器内科	1,600,000	補委 日本学術振興会
34	肺癌増殖における炎症反応の関与と新たなマーカー・治療法の開発	水野 圭子	呼吸器内科	1,700,000	補委 日本学術振興会
35	TCR-Vβ 特異的ヒト抗体を用いたT	有馬 直道	血液膠原病内科	1,100,000	補委 文部科学省
36	有棘赤血球舞踏病におけるオートファジー性神経変性の分子的機序の解明と治療的研究	佐野 輝	神経科精神科	5,700,000	補委 文部科学省
37	パーキン遺伝子と精神障害の関わりーコピー数変異を含めた総合的分子遺伝学的研究ー	佐野 輝	神経科精神科	1,100,000	補委 文部科学省
38	Choreinとミトコンドリア関連細胞死の関連について	中村 雅之	神経科精神科	2,500,000	補委 文部科学省
39	神経変性疾患に関する調査研究班	佐野 輝 (分担)	神経科精神科	2,100,000	補委 厚生労働省
40	造血幹細胞の加齢に関する研究-移植による変化-	河野 嘉文	小児科	1,600,000	補委 文部科学省
41	多周波数インピーダンス法を応用した硬性浮腫の客観的評価導入による川崎病重症度評価	野村 裕一	小児科	1,700,000	補委 文部科学省
42	インターロイキン-8を介した末梢血幹細胞動員の分子機序の解明と臨床応用	岡本 康裕	小児科	700,000	補委 文部科学省
43	MPO阻害剤によるベンゼン・放射線誘導骨髄障害、AML発がんの予防	西川 拓朗	小児科	1,700,000	補委 文部科学省
44	HTLV-I母子感染予防に関する研究:HTLV-I抗体陽性妊婦からの出生児コホート研究	河野 嘉文 (分担)	小児科	1,500,000	補委 厚生労働省
45	再発等の難治性造血器腫瘍に対する同種造血幹細胞移植を用いた効果的治療法確立に関する研究	河野 嘉文 (分担)	小児科	1,000,000	補委 厚生労働省
46	高精度の分子遺伝学的評価による食道癌治療成績向上のための包括的研究	夏越 祥次 (分担)	第一外科	1,000,000	補委 日本学術振興会

小計 23

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
47 整容性を考慮した乳房温存時における遊離真皮脂肪片移植の生着機序の解明と臨床応用	喜島 祐子	第一外科	700,000	補委 日本学術振興会
48 生検標本を用いた食道扁平上皮癌のリンパ節転移予測に関する研究	内門 泰斗	第一外科	700,000	補委 日本学術振興会
49 微小癌細胞のNOGマウスによる生着モデルと抗癌剤感受性試験への手技の確立	上之園 芳一	第一外科	400,000	補委 日本学術振興会
50 消化器癌のリンパ管新生に関連する微小環境の分子生物学的解析	松本 正隆	第一外科	700,000	補委 日本学術振興会
51 消化器癌の癌免疫機構における免疫補助刺激分子の臨床的意義と新たな臨床応用への展開	有上 貴明	第一外科	700,000	補委 日本学術振興会
52 口腔内アプローチによる新しい内視鏡下甲状腺切除に関する研究	中条 哲浩	第一外科	600,000	補委 日本学術振興会
53 幹細胞ニッチからの食道扁平上皮癌リンパ節転移機構の解明と治療	喜多 芳昭	第一外科	1,400,000	補委 日本学術振興会
54 低侵襲性膵臓手術における膵消化管再建術の手術モデル開発と訓練システムの構築	前村 公成	第一外科	1,500,000	補委 日本学術振興会
55 食道癌幹細胞を標的とした新しい集学的治療体系の確立	奥村 浩	第一外科	2,100,000	補委 日本学術振興会
56 N型糖鎖マーカーを用いた臓器特異的癌腫瘍マーカーの開発	夏越 祥次	第一外科	1,400,000	補委 日本学術振興会
57 食道癌腫瘍微小環境に関する2つの新規候補ペプチド断片による転移・予後解析	佐々木 健	第一外科	1,100,000	補委 日本学術振興会
58 化療後の消化器癌遺残腫瘍のキャラクターの解析とその制御に関する研究	石神 純也	第一外科	900,000	補委 日本学術振興会
59 解糖系亢進に関わる肺癌特異的スプライシング異常の臨床的意義と診断・治療への展開	佐藤 雅美	呼吸器外科	4,200,000	補委 日本学術振興会
60 無作為化比較試験による胸部CT検診の感度・特異度算出と死亡率減少効果の推定	佐藤 雅美 (分担)	呼吸器外科	100,000	補委 日本学術振興会
61 低線量らせんCTを用いた革新的な肺がん検診手法の確立に関する研究	佐藤 雅美 (分担)	呼吸器外科	900,000	補委 厚生労働省
62 低線量胸部CTによる肺がん検診の有効性評価のための無作為化比較試験	佐藤 雅美 (分担)	呼吸器外科	500,000	補委 厚生労働省
63 肺癌進行における骨形成性蛋白の役割の解明	青木 雅也	呼吸器外科	1,000,000	補委 日本学術振興会
64 視床痛モデルマウスの確立と視床痛発症メカニズムの基礎的検討	有田 和徳	脳神経外科	1,100,000	補委 日本学術振興会
65 ヒトの言語-運動連関のメカニズムの磁気刺激を用いた解明および機能回復への応用	時村 洋	脳神経外科	1,800,000	補委 日本学術振興会
66 難治性てんかんにおけるSV2Aおよびシナプス小胞放出機構障害の検討	花谷 亮典	脳神経外科	1,200,000	補委 日本学術振興会
67 グリオーマにおけるSHHと遊走能の関係	内田 裕之	脳神経外科	1,200,000	補委 日本学術振興会
68 Web会議, ITカルケアシステムを用いた脳神経外科診療・教育ネットワークの形成	菅田 真生	脳神経外科	500,000	補委 日本学術振興会
69 脳卒中におけるCNPの病態生理学的意義の解明	永山 哲也	脳神経外科	900,000	補委 日本学術振興会

小計 23

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1. 研究費補助等の実績

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
70	Wnt/Frizzled系主要メッセージ経路探索による新しい抗グリオーマ戦略	平野 宏文	脳神経外科	1,000,000	補委 日本学術振興会
71	悪性神経膠腫におけるMGMTの関与しないテモゾロミド耐性機構の解明	八代 一孝	脳神経外科	1,100,000	補委 日本学術振興会
72	GOLPH3関連遺伝子制御による骨軟部腫瘍治療研究	小宮 節郎	整形外科	1,900,000	補委 日本学術振興会
73	Smoothedの機能とシグナルクロストーク解明による骨肉腫分子標的治療開発	山元 拓哉	整形外科	600,000	補委 日本学術振興会
74	Hedgehog関連遺伝子制御による横紋筋肉腫の治療研究	川畑 直也	整形外科	1,200,000	補委 日本学術振興会
75	超音波バブルリポソームを用いた新規抗癌剤デリバリーシステムによる肉腫標的治療	横内 雅博	整形外科	300,000	補委 日本学術振興会
76	変形性関節症新規動物モデルの提示と治療法開発への基礎研究	井尻 幸成	整形外科	500,000	補委 日本学術振興会
77	霊長類脊髄損傷モデルを用いたiPS細胞由来神経幹細胞移植と分化制御による再生治療	精松 昌彦	整形外科	2,000,000	補委 日本学術振興会
78	慢性圧迫性脊髄障害に対するオートファジー亢進薬剤による神経保護作用の解析	田邊 史	整形外科	2,500,000	補委 日本学術振興会
79	骨軟部腫瘍に対する新規遺伝子治療ベクターの開発-GLI2をターゲットとして	永野 聡	整形外科	2,100,000	補委 日本学術振興会
80	皮膚T細胞リンパ腫の生物学的予後因子に基づく予後予測モデルの構築	河井 一浩	皮膚科	800,000	補委 日本学術振興会
81	ATLの診療実態・指針の分析による診療体制の整備	河井 一浩 (分担)	皮膚科	1,000,000	補委 厚生労働省
82	尿路上皮癌患者尿中に存在するマイクロRNAを基点とした新規診断法の開発研究	榎田 英樹	泌尿器科	1,700,000	補委 日本学術振興会
83	高悪性度筋層非浸潤癌に対する経尿道的膀胱腫瘍切除後の治療方針の確立に関する研究	中川 昌之 (分担)	泌尿器科	130,000	補委 厚生労働省
84	標準的治療の確立が望まれる難治性疾患に対する新規治療法の開発	中川 昌之 (分担)	泌尿器科	400,000	補委 厚生労働省
85	硝子体の基礎病態の解明と制御機構の研究	坂本 泰二	眼科	4,600,000	補委 日本学術振興会
86	眼内薬物治療の飛躍的効果向上の研究:自然免疫の関与について	坂本 泰二	眼科	1,200,000	補委 日本学術振興会
87	極性の変化による網膜色素上皮の環境制御に関する研究	園田 祥三	眼科	2,000,000	補委 日本学術振興会
88	硝子体内投与薬物の眼組織障害の研究と臨床応用	山下 高明	眼科	1,500,000	補委 日本学術振興会
89	内眼炎発症に関連する遺伝子多型の解析と個別化医療への応用	中尾 久美子	眼科	1,100,000	補委 日本学術振興会
90	網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する調査研究	坂本 泰二 (分担)	眼科	3,000,000	補委 厚生労働省
91	プロポフォールによるアディポネクチン分泌低下の機序とインスリン抵抗性への関与	上村 裕一	麻酔科	400,000	補委 日本学術振興会
92	呼吸ガスバイオマーカーの周術期管理における有用性の検討	松永 明	麻酔科	1,800,000	補委 日本学術振興会



## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
93	慢性神経因性疼痛におけるPPARgammaシグナルの役割	長谷川 麻衣子	麻酔科	700,000	補委 日本学術振興会
94	メタボロミクスを用いた食欲調節ペプチド自己抗体症候群の総合的解析	乾 明夫	心身医療科	6,500,000	補委 日本学術振興会
95	がん治療の副作用軽減ならびにがん患者のQOL向上のための漢方薬の臨床応用とその作用機構の解明	乾 明夫	心身医療科	1,800,000	補委 厚生労働省
96	シトリン欠損症患者における臨床像の多様性の解明と致死性の脳症の発症予防法の開発	乾 明夫	心身医療科	700,000	補委 厚生労働省
97	新たな促通法と機能的振動刺激法を用いた革新的片麻痺歩行訓練法の確立と効果の検討	川平 和美	リハビリテーション科	1,300,000	補委 日本学術振興会
98	新しい多感覚誘導性注意改善システムの開発と臨床応用	下堂 菌 恵	リハビリテーション科	500,000	補委 日本学術振興会
99	ゴーグル型視覚刺激装置を用いた半側空間失認へのリハビリテーションとその効果	緒方 敦子	リハビリテーション科	1,000,000	補委 日本学術振興会
100	温度受容体の神経因性膀胱の病態への関与の解明	吉田 輝	リハビリテーション科	1,200,000	補委 日本学術振興会
101	嚥下障害に対する高電圧パルス電流を用いた電気刺激療法の効果	松元 秀次	リハビリテーション科	300,000	補委 日本学術振興会
102	視野欠損リハビリテーションの効果のfMRI・NIRSによる評価	宮田 隆司	リハビリテーション科	1,100,000	補委 日本学術振興会
103	脳卒中片麻痺患者に対する装具療法を用いた歩行指導と促通反復療法の併用効果の検討	松元 秀次	リハビリテーション科	230,000	補委 垂水中央病院
104	口腔癌における膜型ムチン発現の臨床病理学的意義の解明と診断への応用	杉原 一正	口腔外科	1,600,000	補委 日本学術振興会
105	MUC1遺伝子スプライシング異常が口腔癌に及ぼす影響	浜田 倫史	口腔外科	1,300,000	補委 日本学術振興会
106	舌運動圧を用いた構音時舌運動解析の試みと口蓋裂異常構音識別への応用	平原 成浩	口腔顎顔面外科	500,000	補委 日本学術振興会
107	歯原性上皮細胞の感染防御メカニズム解明に関する研究	石畑 清秀	口腔顎顔面外科	500,000	補委 日本学術振興会
108	口蓋裂術後の口蓋化構音病態解明に関する空気力学的研究	緒方 祐子	口腔顎顔面外科	500,000	補委 日本学術振興会
109	Notchシグナルを標的とした新規口腔扁平上皮癌治療に関する研究	比地岡 浩志	口腔顎顔面外科	900,000	補委 日本学術振興会
110	高齢者における誤嚥および窒息に関する潜在的危険要因の分析	中村 康典	口腔顎顔面外科	500,000	補委 日本学術振興会
111	骨成長因子・骨補填材を用いた骨造成術における三次元的・病理組織学的検討	西原 一秀	口腔顎顔面外科	700,000	補委 日本学術振興会
112	エナメル上皮腫による骨破壊・浸潤に関わる細胞間シグナルの解明と治療戦略への展開	中村 典史	口腔顎顔面外科	900,000	補委 日本学術振興会
113	口腔扁平上皮癌の低酸素環境におけるEMTの解明と治療標的としての意義	石田 喬之	口腔顎顔面外科	500,000	補委 日本学術振興会
114	音声視覚化システムを用いた音声解析と言語療法応用への試み	新中須 真奈	口腔顎顔面外科	600,000	補委 日本学術振興会
115	共培養実験系を用いたエナメル上皮腫による骨破壊の分子機構解明とリスク判定への応用	藤井 智美	口腔顎顔面外科	1,700,000	補委 日本学術振興会

小計 23

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
116	唾液タンパク質と口腔細菌の相互作用:菌体付着と菌体凝集を決定する因子の解明	於保 孝彦	口腔保健科	1,400,000	補委 日本学術振興会
117	ミュータンスレンサ球菌による新規動脈硬化発症機序の解明-菌の細胞内侵入と認識応答	長田 恵美	口腔保健科	1,100,000	補委 日本学術振興会
118	口腔細菌による全身性疾患に対する定着・感染機構を応用した宿主のリスク診断法の開発	山口 泰平	口腔保健科	1,100,000	補委 日本学術振興会
119	脳-腸相関を軸とした顎口腔と胃食道との間の知覚-運動制御機構と関連疾患の解明	宮脇 正一	矯正歯科	7,000,000	補委 日本学術振興会
120	脳・消化管ペプチドによる顎口腔異常機能活動の発現機序の解明	八木 孝和	矯正歯科	1,600,000	補委 日本学術振興会
121	咀嚼による胃の運動機能調整における自律神経機能と消化管ホルモンの役割の解明	大牟禮 治人	矯正歯科	1,900,000	補委 日本学術振興会
122	コミュニケーションツールが青少年の睡眠、消化器疾患および顎発育に及ぼす影響の解明	坂口 勝義	矯正歯科	2,200,000	補委 日本学術振興会
123	内臓感覚賦活化による口腔生理機能の再生-脳腸相関モデルとPETイメージング解析-	植田 紘貴	矯正歯科	1,400,000	補委 日本学術振興会
124	現在考えられ得る全ての脱落要因を排除した矯正用皮質骨インプラントシステムの開発	國則 貴玄	矯正歯科	1,700,000	補委 日本学術振興会
125	歯周病原因子と過大な機械的刺激が歯の移動の細胞シグナリング機構に及ぼす影響の解明	前田 綾	矯正歯科	1,500,000	補委 日本学術振興会
126	食道粘膜感受性が顎口腔系のパラファンクションに与える影響の解明	友成 博	矯正歯科	1,700,000	補委 日本学術振興会
127	食道粘膜刺激によるブラキシズム誘発機構の神経生理学的解明と治療法の開発	上村 裕希	矯正歯科	1,000,000	補委 日本学術振興会
128	食道感覚が覚醒時ブラキシズムを惹起する時の脳内活性部位の特定とその発現機序の解明	永山 邦宏	矯正歯科	1,200,000	補委 日本学術振興会
129	ES/iPS細胞へのMsx2遺伝子導入後の骨芽細胞への分化・機能活性に関する研究	山本 芳丈	矯正歯科	800,000	補委 日本学術振興会
130	流体-構造連成解析を用いた小児睡眠時無呼吸症候群の通気障害評価システムの構築	山崎 要一	小児歯科	2,000,000	補委 日本学術振興会
131	流体シミュレーション技法による3次元管腔気道形態の通気機能と顎咬合状態の関連評価	山崎 要一	小児歯科	3,900,000	補委 日本学術振興会
132	上気道流体シミュレーションによる小児OSASの新しい診断法と歯科的対応法への展開	深水 篤	小児歯科	500,000	補委 日本学術振興会
133	流体シミュレーションによる小児OSASの通気障害部位の特定と治療予測モデルの構築	岩崎 智憲	小児歯科	600,000	補委 日本学術振興会
134	独創的な手法を用いたヒトiPS細胞由来の歯形成細胞群の濃縮法の樹立	長谷川 大子	小児歯科	1,100,000	補委 日本学術振興会
135	汎用性の高い特異的組織・細胞破壊システムを用いた歯形成不全マウスの作製と応用	松本 祐子	小児歯科	1,000,000	補委 日本学術振興会
136	年度真の癌幹細胞マーカーは、未分化細胞特異的転写因子Oct-3/4であることを証明	窪田 直子	小児歯科	2,000,000	補委 日本学術振興会
137	呼吸様式は「食べ方」に影響するのかわ?	武元 嘉彦	小児歯科	2,100,000	補委 日本学術振興会

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
138	口唇口蓋裂児における哺乳床の知られざる効果を探る	徳富 順子	小児歯科	500,000	補委 日本学術振興会
139	完全なES/iPS細胞に由来する歯形成細胞誘導に関する研究	赤坂 恵理	小児歯科	900,000	補委 日本学術振興会
140	小児閉塞性睡眠時無呼吸症候群への流体構造練成解析を用いた上気道通気状態シミュレーションの臨床応用	岩崎 智憲	小児歯科	500,000	補委 日本歯科医学会
141	象牙質知覚過敏症における知覚メカニズムの解明:浸透圧による象牙芽細胞の応答	徳田 雅行	保存科	1,600,000	補委 日本学術振興会
142	歯髄象牙芽細胞複合体における痛覚の発生メカニズムの解析	達山 祥子	保存科	900,000	補委 日本学術振興会
143	MK615の歯科医学への応用に向けて:抗う蝕・抗菌周病特性の解析	森元 陽子	保存科	1,500,000	補委 日本学術振興会
144	軸索反射によって産生される過剰神経ペプチドの特発性歯髄炎への関与	小山 徹	保存科	900,000	補委 日本学術振興会
145	歯内-歯周疾患に対する新たな治療法の確立;補体調節因子の制御	作田 哲也	保存科	800,000	補委 日本学術振興会
146	脱分化脂肪細胞DFATを用いた歯周・顎骨組織欠損に対する新規再生治療法の基盤開発	野口 和行	歯周病科	6,800,000	補委 日本学術振興会
147	ヒト成熟脂肪細胞由来脱分化脂肪細胞(DFAT)を用いた歯周組織再生に関する研究	吉元 剛彦	歯周病科	1,400,000	補委 日本学術振興会
148	iPS細胞由来の高純度間葉系幹細胞を用いた新規歯周組織再生療法に関する研究	迫田 賢二	歯周病科	1,300,000	補委 日本学術振興会
149	iPS細胞を用いた歯周組織再生型インプラントの開発	野口 和行	歯周病科	1,400,000	補委 日本学術振興会
150	光殺菌法と進化型多血小板血漿/細胞複合体注入によるインプラント周囲炎治療法	松山 孝司	歯周病科	1,900,000	補委 日本学術振興会
151	子宮内感染源としての歯周病原細菌の可能性とメカニズムの解明	長谷川 梢	歯周病科	1,900,000	補委 日本学術振興会
152	歯周組織再生に向けたmTORを軸とした分子生物学的基盤の確立に関する研究	中村 利明	歯周病科	1,300,000	補委 日本学術振興会
153	機能性に優れたウレタン柔軟性裏装材の開発と臨床応用に関する研究	門川 明彦	冠・ブリッジ科	500,000	補委 日本学術振興会
154	機能材料化した酸化チタンナノファイバーの審美材料への応用	柳田 廣明	冠・ブリッジ科	1,200,000	補委 日本学術振興会
155	超熱伝導グラファイトファイバーによる義歯床用レジンのコンポジット化	村原 貞昭	冠・ブリッジ科	800,000	補委 日本学術振興会
156	金属修復物直下のデュアルキュアレジンセメントの機械的性質に及ぼす光照射の影響	塩向 大作	冠・ブリッジ科	600,000	補委 日本学術振興会
157	無歯顎者の義歯装着による嚥下時の呼吸パターンの時間的検討	加地 彰人	義歯補綴科	600,000	補委 日本学術振興会
158	骨芽細胞分の分化およびメカニカルストレス応答性におけるAMPKの役割	葛西 貴行	義歯補綴科	1,200,000	補委 日本学術振興会
159	イメージ連成バイオメカニクスを応用したインプラント治療における力学的安全性の保証	丸山 浩美	義歯補綴科	400,000	補委 日本学術振興会
160	無歯顎者におけるむせと嚥下時呼吸の関連に着目した視覚化システム開発と訓練への応用	田中 帝臣	義歯補綴科	1,100,000	補委 日本学術振興会

小計 23

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
161	食事栄養指導ツール開発のための咀嚼・嚥下機能と食事・栄養状態の関連の検討	西 恭宏	義歯補綴科	1,200,000	補委 日本学術振興会
162	効果的な保湿が口腔乾燥義歯患者の口腔および咽頭の細菌叢を正常化する	村上 格	義歯補綴科	900,000	補委 日本学術振興会
163	頭頸部癌治療による口腔粘膜障害低減を目指した内因性酸化ストレス抑制療法の確立	馬嶋 秀行	顎顔面放射線学	1,300,000	補委 日本学術振興会
164	エストロゲン依存性疾患の活性酸素種産生に対するエストロゲンレセプター量の役割	末永 重明	顎顔面放射線科	600,000	補委 日本学術振興会
165	28日間宇宙環境に暴露された細胞は放射線に対し抵抗性を獲得するか?	犬童 寛子	顎顔面放射線学	600,000	補委 日本学術振興会
166	低線量放射線による細胞の放射線適応応答メカニズムの解明	富田 和男	顎顔面放射線学	2,300,000	補委 日本学術振興会
167	単一ニューロン標識法による痛覚神経回路のボトムアップ的解析	大野 幸	全身管理歯科治療部	1,200,000	補委 日本学術振興会
168	気管チューブの位置決定における呼吸音変化の信頼性に関する研究	椋山 加綱	歯科麻酔科	800,000	補委 日本学術振興会
169	アルツハイマー病治療戦略へ向けた新たな試み -AICDの転写制御機構の解明-	武田 泰生	薬剤部	1,100,000	補委 日本学術振興会
170	がん分子標的治療薬エルロチニブの耐性機構解明と耐性克服薬剤の開発	池田 龍二	薬剤部	800,000	補委 日本学術振興会
171	PK-PD理論に基づいたダブトマイシンの投与方法の解発	松元 一明	薬剤部	600,000	補委 日本学術振興会
172	小児がん患者の遺伝子多型解析に基づくセロトニン受容体拮抗薬の適正使用に関する研究	牛山 美奈	薬剤部	600,000	補委 日本学術振興会
173	多変量解析に基づく医薬学臨床データ解析システムの構築	日高 伸之介	薬剤部	300,000	補委 日本学術振興会
174	CDDP誘発性腎機能障害とマグネシウムの腎保護作用の関係に関する研究	松田 絹代	薬剤部	600,000	補委 日本学術振興会
175	頭頸部悪性黒色腫の転移に対するトラニラストの効果に関する検討	田實 裕介	薬剤部	600,000	補委 日本学術振興会
176	糖鎖固定化ナノ粒子を用いたウイルス性疾患の非侵襲診断システム	古川 良尚 (分担)	輸血・細胞治療部	384000	補委 (独) 科学技術振興機構
177	HIV感染者等保健福祉相談事業	古川 良尚	輸血・細胞治療部	800000	補委 エイズ予防財団
178	指示のシステム化による医療安全と診療記録の質保証のための問題解決的アプローチ	宇都 由美子	医療情報部	110,000	補委 文部科学省

計 178

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
1 J Cardiovasc Electrophysiol 2012; 23: 567-573.	Incidence of asymptomatic cerebral micro thromboembolism after atrial fibrillation ablation guided by complex fractionated atrial electrogram	Ichiki H	心臓血管内科
2 J Am Heart Assoc 2012; 1: e003079.	Novel therapy for atherosclerosis using recombinant immunotoxin against folate receptor $\beta$ -expressing macrophages.	Furusho Y	心臓血管内科
3 Circ J 2012; 76: 1712-1721.	Waon therapy upregulates Hsp90 and leads to angiogenesis through the Akt-eNOS pathway in mouse hindlimb ischemia.	Miyauchi T	心臓血管内科
4 Circ Cardiovasc Interv 2012; 5: 237-246.	Incidence and outcome of surgical procedures after coronary bare-metal and drug-eluting stent implantation: a report from the CREDO-Kyoto PCI/CABG registry cohort-2.	Tokushige A	心臓血管内科
5 J Cardiol 2012; 60: 119-125.	Effectiveness of esophagus detection by three-dimensional electroanatomical mapping to avoid esophageal injury during ablation of atrial fibrillation.	Maenosono R	心臓血管内科
6 Heart Vessels 2013 Mar;28(2):157-165.	Characterization of the effect of serum bilirubin concentrations on coronary endothelial function via measurement of high-sensitivity C-reactive protein and high-density lipoprotein cholesterol.	Yoshino S	心臓血管内科
7 Int J Cardiol 2012 (in press)	Atrial fibrillation-induced endothelial dysfunction improves after restoration of sinus rhythm.	Yoshino S	心臓血管内科
8 Cardiovasc Interv Ther 2013 Jan;28(1):45-55.	Influence of initial acute myocardial infarction presentation on the outcome of surgical procedures after coronary stent implantation: a report from the CREDO-Kyoto PCI/CABG Registry Cohort-2.	Tokushige A	心臓血管内科
9 Inflamm Bowel Dis.2012 Apr;18(4)667-675	Human neutrophil peptide-1 aggravates dextran sulfate sodium-induced colitis	Hashimoto S	消化器内科
10 Intern Med.2012;51(6)559-565	High serum thioredoxin levels are reduced after tonsillectomy in patients with IgA nephropathy.	Nosaki T	腎臓内科
11 Am J Surg Pathol.2012 Nov;36(11)1709-1717	Endoscopic Surveillance of Patients With Hereditary Diffuse Gastric Cancer: Biopsy Recommendations After Topographic Distribution of Cancer Foci in a Series of 10 CDH1-mutated	Fujita H	消化器内科
12 Exp Ther Med.2012 Aug;4(4)581-588	Serum prohepcidin levels are potential prognostic markers in patients with multiple myeloma.	Haraguchi K	消化器内科
13 Mol Med Report.2012 Aug; 6(2)259-264	Difference in serum complement component C4a levels between hepatitis C virus carriers with persistently normal alanine aminotransferase levels or chronic	Imakiire K	消化器内科
14 Hepatol Res.2012 Jul;42(7)627-636	Prevention of hepatitis B virus reactivation in patients receiving immunosuppressive therapy or chemotherapy.	Oketani M	消化器内科

小計 14

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
15 J Gastroenterol.2013 Feb;48(2)193-202	Hepatocyte growth factor stimulates the migration of gastric epithelial cells by altering the subcellular localization of the tight junction protein ZO-1.	Nasu Y	消化器内科
16 Hepatol Res.2013 Feb; 43(2)97-105	Etiology and prognosis of fulminant hepatitis and late-onset hepatic failure in Japan: Summary of the annual nationwide survey between 2004 and 2009.	Oketani M	消化器内科
17 Neurogenetics.2012 Nov; 13:359-365, 2012	Late-onset Charcot-Marie-Tooth disease 4F caused by periaxin.	Tokunaga S	神経内科
18 Neuromuscular Disorders.2012 Aug; 22:747-754	Inclusion body myositis coexisting with hypertrophic cardiomyopathy: An autopsy study.	Inamori Y.	神経内科
19 Diabetes Res Clin Pract.2013Jan;99(1):24-91	Intraepidermal nerve fiber density and nerve conduction study parameters correlate with clinical staging of diabetic polyneuropathy.	Arimura A.	神経内科
20 肺癌 52(3):290-295 (2012.6)	IL-6産生悪性胸腹膜中皮腫の1例.	濱田 努	呼吸器内科
21 BMC Pulm Med 12(55): 1-7(2012.9)	The elevation of serum napsin A in idiopathic pulmonary fibrosis, compared with KL-6, surfactant protein-A and surfactant protein-D.	Samukawa T	呼吸器内科
22 肺癌 52(6):897-901 (2012.10)	アンジオテンシン受容体拮抗薬およびカルシウム拮抗薬併用により蛋白尿の再出現を回避し治療継続が可能であったbevacizumab使用例	本川 郁代	呼吸器内科
23 日本呼吸器学会雑誌 2(2):107-113(2013.3)	上気道閉塞パターンを呈し声門下狭窄を伴った Wegener肉芽腫症の1例.	佃屋 剛	呼吸器内科
24 Bone Marrow transplantation(2012)47.463-464	Recombinant human soluble thrombomodulin for the treatment of hepatic sinusoidal obstructive syndrome post allogeneic hematopoietic SCT.	Nakamura D	血液膠原病内科
25 Mitochondrion.2012 Nov;12: 617-622	Heteroplasmic m.1624C>T mutation of the mitochondrial tRNA <sup>Val</sup> gene in a proband and his mother with repeated consciousness disturbances	Sangatsuda Y	神経科精神科
26 Gen. Hosp. Psychiatry, 34: 211e1-211e3, 2012 Mar-Apr	Quetiapine-induced frequent premature ventricular contraction	Deguchi A	神経科精神科
27 Int.J Hematol.2012 May; 95:494-499	Vascular endothelial growth factor corrected by the platelet count and hematocrit is associated with the clinical course of aplastic anemia in children.	Kodama Y	小児科
28 Environ Health Perspect.2012 Jan; 120(1):62-67	Benzene Metabolite1,2,4-Benzemetriol Induces Halogenated DNA and Tyrosines Representing Halogenative Stress in the HL-60 Human Myeloid Cell Line.	Nishikawa T	小児科

小計 14

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
29	Pediatr Int.2012 Feb; 54(1):14-18	Kawasaki disease patients with six principal symptoms have a high risk of being a nonresponder.	Nomura Y	小児科
30	Scand J Immunol. 2012;75(1):120-126.	Potential role of autoantibody in severe neutropenia of a patient with kawasaki syndrome.	Ueno K	小児科
31	SURGERY. 2012 Mar;151(3):444-455	Clinical and pathologic evaluation of implanted free dermal fat grafts after breast cancer surgery:A retrospective analysis	Kijima Y	第一外科
32	Cancer Immunol immunother 2012 Oct;61;1663-1669	Cancerous HLA class I expression and regulatory T cell infiltration in gastric cancer	Ishigami S	第一外科
33	Clin J Gastroenterol 2012 Jun;5(3):230-233	Successful treatment of advanced gastric adenocarcinoma with portal tumor thrombosis by total gastrectomy following CDDP and S-1 therapy	Ishigami S	第一外科
34	Int Canc Conf J 2013 Apr;2(2):101-106	Immediate volume replacement using a modifield free dermal fat graft from the lateral abdomen for a patient with early breast cancer	Kijima Y	第一外科
35	INTERNATIONAL SURGERY 2013 Jan-Mar;98:1-5	Serum Concentrations of Antibiotics During Severe Invasive Surgery Such as Esophagectomy for Esophageal Cancer	Owaki T	第一外科
36	Ann Surg Oncol 2013 Feb;20(2):515-521	Clinical Significance of Lymph Node Micrometastasis in Gastric Cancer	Arigami T	第一外科
37	Surgery Today 2013 Apr;43(4):456-460	Immediate reconstruction using a modified inframammary adipofascial flap after partial mastectomy	Kijima Y	第一外科
38	Modern Plastic Surgery 2013 3:57-64	Oncoplastic Breast Surgery Using Spindle Shaped-Partial Mastectomy for Early Breast Cancer in the Upper Quadrant Area	Kijima Y	第一外科
39	Modern Plastic Surgery 2013 3:43-46	Histological Findings of a Local Adipofascial Flap That Was Implanted during Breast Conserving Surgery	Kijima Y	第一外科
40	日心外会誌 41(1): 16-20, 2012	結核性心膜炎の治療中に発症した急性A型大動脈解離の1例	松葉 智之	心臓血管・消化器外科
41	呼吸(別刷) Vol.32(1):62-69	喀痰細胞診で分かること	佐藤 雅美	呼吸器外科
42	鹿児島県臨床外科学会誌	慢性膿胸に対する持続陰圧吸引療法の検討	原田 亜矢	呼吸器外科

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
43 Neuropathology. 2012 ; 32 : 628-637	TLR4, IL-6, IL-18, MYD88 and HMGB1 are highly expressed in intracranial inflammatory lesions and the IgG4/IgG ratio correlates with TLR4 and IL-6	Hirano H	脳神経外科
44 Neuroscience. 2012 Sep; 221 : 12-20	Low distribution of synaptic vesicle protein 2A and synaptotagmin-1 in the cerebral cortex and hippocampus of spontaneously epileptic rats exhibiting both tonic convulsion and absence seizure	Hanaya R	脳神経外科
45 Neurologia Medico- Chirurgica. 2012 ; 52 :142-147	Noninvasive determination of speech dominance by single magnetic stimulation of the bilateral hand motor cortex	Tokimura H	脳神経外科
46 Neurologia Medico- Chirurgica. 2012 ; 52 : 148-153	Are the excitability changes in the hand motor cortex during speech in left-hand subjects?	Tokimura H	脳神経外科
47 Journal of Clinical Neuroscience. 2012 Mar; 19 : 394-401	Clinical presentation and treatment of aneurysms associated with fenestrated basilar artery	Tanaka S	脳神経外科
48 Neurosurgical Review. 2012 Oct;35:497-504	Clinical presentation and treatment of distal anterior inferior cerebellar artery aneurysms	Tokimura H	脳神経外科
49 J Biol Chem.2012 Aug; 287(34):29101-29113	SnoN suppresses maturation of chondrocytes by mediating signal cross-talk between transforming growth factor- $\beta$ and bone morphogenetic protein pathways.	Kawamura I	整形外科
50 Plos One 7(7):e39268, 2012	RBPJ is a novel target for rhabdomyosarcoma therapy.	Nagao H	整形外科
51 Diagn Pathol. 2012 Aug 20;7:108	Pathological femoral fractures due to osteomalacia associated with adefovir dipivoxil treatment for hepatitis B: a case report.	Tanaka M	整形外科
52 Int.J.Dermatol. 2012 Apr ; 51(4) : 406- 409	Evaluation of a newly-developed immunochromatography strip test for diagnosing dermatophytosis.	Higashi Y	皮膚科
53 Phytother.Res. 2012 Jun ; 26(6) : 833- 838	MK615, a Prunus mume Steb. Et Zucc ('Ume') Extract, Attenuates the Growth of A375 Melanoma Cells by Inhibiting the ERK1/2-I $\delta$ -1 Pathway.	Tada K	皮膚科
54 J.Dermatol. 2012 Jul ; 39(7) : 636-639	Immunoglobulin G4-positive multi-organ lymphoproliferative syndrome with antiphospholipid antibody syndrome.	Kawakami N	皮膚科
55 Eur.J.Dermatol. 2012 Jul-Aug ; 22(4) : 578-579	Cutaneous mucormycosis in bone marrow transplantation recipients.	Kawasaki M	皮膚科
56 J.Dermatol. 2012 Oct ; 39(10) : 884- 885	Bullous pemphigoid associated with type 1 diabetes mellitus responsive to mycophenolate mofetil.	Sakanoue M	皮膚科



## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
57	J.Dermatol.Sci. 2012 Oct ; 68(1) : 19-24	p53R2 is a prognostic factor of melanoma and regulates proliferation and chemosensitivity of melanoma cells.	Matsushita S	皮膚科
58	J.Dermatol. 2012 Dec ; 39(12) : 1081-1083	Late-onset papular eruption after the initial course of combination chemotherapy consisting of paclitaxel and carboplatin: Report of two cases.	Tamai M	皮膚科
59	J.Dermatol. 2012 Dec ; 39(12) : 1084-1085	Active sensitization to beryllium by diagnostic patch tests.	Yoshifuku A	皮膚科
60	Biochem.Biophys.Res.Comm. 2013 Jan ; 430(3) : 1078-1082	The transcription factor Snail expressed in cutaneous squamous cell carcinoma induces epithelial-mesenchymal transition and down-regulates COX-2	Shimokawa M	皮膚科
61	西日本泌尿器科 2012; 74 : 57-63	尿路上皮癌の分子マーカー	榎田 英樹	泌尿器科
62	西日本泌尿器科 2012; 74 : 358-363	解剖学的知識に基づくミニマム創神経温存前立腺全摘除術	古郷 修一郎	泌尿器科
63	救急医学 2012; 36: 1794-1797	【泌尿器科救急の実際】血管病変 腎梗塞, 腎静脈血栓症	山田 保俊	泌尿器科
64	癌の臨床 2012; 57 : 247-252	【外科治療 : さらなる進化に向けて】小径腎がんの外科治療	中川 昌之	泌尿器科
65	BRC 2012 ; 417: 588-593	Tumor suppressive microRNA-1 mediated novel apoptosis pathways through direct inhibition of splicing factor serine/arginine-rich 9 (SRSF9/SRp30c) in bladder cancer	Yoshino H	泌尿器科
66	Int J. Oncology 2012 Apr;40(4):951-959	Novel oncogenic function of mesoderm development candidate 1 and its regulation by MiR-574-3p in bladder cancer cell lines.	Tatarano S	泌尿器科
67	Int J Urology 2012 Apr;19(4): 360-368	Genome-wide transcriptome analysis of fluoroquinolone resistance in clinical isolates of Escherichia coli	Yamane T	泌尿器科
68	Oncotarget 2012 Jan;3(1): 44-57	Tumor suppressive microRNA-1285 regulates novel molecular targets: aberrant expression and functional significance in renal cell carcinoma.	Hidaka H	泌尿器科
69	Retina. 2012 Apr;32(4):767-72.	Early diagnosis of macular hole closure of a gas-filled eye with Watzke-Allen slit beam test and spectral domain optical coherence tomography.	Yamakiri K	眼科
70	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2012 Apr 18;53(4):1917-22.	Optic disc swelling in vogt-koyanagi-harada disease.	Nakao K	眼科

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
71	Eur J Ophthalmol. 2012 May-Jun;22(3):503-5.	Choroidal neovascularization of optic disk melanocytoma treated with bevacizumab.	Kamisasanuki T	眼科
72	Ophthalmologica. 2013;229(1):43-9.	Early imaging of macular hole closure: A diagnostic technique and its quality for gas-filled eyes with spectral domain optical coherence tomography.	Yamashita T	眼科
73	眼科臨床紀要5巻5号 Page429-432(2012.05)	鹿児島大学附属病院ロービジョン外来における原因疾患別のニーズと光学的補助具.	齊之平真弓	眼科
74	Ophthalmology. 2012 Nov;119(11):2319-27.	Comparison of Foveal Microstructure Imaging with Different Spectral Domain Optical Coherence Tomography Machines.	Terasaki H	眼科
75	Jpn J Ophthalmol. 2013 Jan;57(1):57-62. (Erratum to: Jpn J Ophthalmol. 2013 May;57(3):333)	Long-term intraocular pressure changes after combined phacoemulsification, intraocular lens implantation, and vitrectomy. (Erratum to: Long-term intraocular pressure changes after combined phacoemulsification, intraocular lens implantation, and vitrectomy.)	Ki-I Y	眼科
76	Jpn J Ophthalmol. 2013 Jan;57(1):108-12.	Hyperreflective dots surrounding the central retinal artery and vein in optic disc melanocytoma revealed by spectral domain optical coherence tomography.	Okubo A	眼科
77	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2013 Mar 11;54(3):1758-66.	Particle-induced endophthalmitis: Possible mechanisms of sterile endophthalmitis after intravitreal triamcinolone.	Otsuka H	眼科
78	Clinical Nuclear Medicine. 2012 May ; 37(5):475-480.	FDG PET/CT and Diffusion-Weighted Imaging of Head and Neck Squamous Cell Carcinoma: Comparison of Prognostic Significance Between Primary Tumor Standardized Uptake Value and Apparent Diffusion Coefficient.	Nakajo M.	放射線科
79	Clinical Nuclear Medicine. 2012 June ; 37(6):607-8.	High FDG and Low FLT Uptake in a Thyroid Papillary Carcinoma Incidentally Discovered by FDG PET/CT.	Nakajo M	放射線科
80	EXPERIMENTAL AND THERAPEUTIC MEDICINE.2012 Sep; 4(3);452-458	Reduction of oxidative stress in liver cancer patients by oral green tea polyphenol Tablets during hepatic arterial infusion chemotherapy.	Baba Y	放射線科
81	Endocrine.2013 Feb; 43(1);219-224	Adrenal venous catecholamine concentrations in patients with adrenal masses other than Pheochromocytoma.	Baba Y	放射線科
82	J Vasc Interv Radiol.2012.Dec;23(12) ;1566-1577	Efficacy of Venous Sac Embolization for Pulmonary Arteriovenous Malformations: Comparison with Feeding Artery Embolization.	Hayashi S	放射線科
83	Radiology.2012 Apr;263(3);732-740	Pancreatic Adenocarcinoma: Variability of Diffusion-weighted MR Imaging Findings.	Fukukura Y	放射線科

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
84 Europern Journal of Radiology.2012 Nov; 81(11);2996-3001	Feasibility of a fixed scan delay technique using a previous bolus tracking technique data for dynamic CT.	Takumi K	放射線科
85 World Journal of Gastroenterology.2012 Nov;18(43);6269-6276	Gd-EOB-DTPA-enhanced magnetic resonance imaging features of hepatic hemangioma compared with enhanced computed tomography.	Tateyama A	放射線科
86 Diagn Interv Radiol.2013 Mar-Apr;19(2);141-144	Experimental renal and hepatic artery embolization with a new embolic agent, atelocollagen, in a porcine model.	Baba Y	放射線科
87 臨床放射線.57(11);1573-1581, 2012.	癌取り扱い規約からみた病期診断と画像診断—泌尿器系腫瘍 副腎—	福倉良彦	放射線科
88 Open Journal of Radiology.3(1);7-11, 2013.	Endovascular treatment of brachiocephalic and subclavian arterial disease.	Baba Y	放射線科
89 Acta Radiologica Short Reports.2012 Apr;1(3);13	FDG PET/CT finding of benign metastasizing leiomyoma of the lung	Nakajo M	放射線科
90 J Obstet Gynaecol Res.2013 Mar;39(3):742-745	Systemic thromboembolism after anti-cancer chemotherapy in a woman with ovarian germ cell tumor.	Yanazume S	産婦人科
91 J Obstet Gynaecol Res.2012 May;38(5):875-879	Large parasitic myomas in abdominal subcutaneous adipose tissue along a previous myomectomy scar.	Yanazume S	産婦人科
92 Anesthesia and Resuscitation.2012 Jun;48(2):53-54	Rapid Development of Airway Edema during Tracheal Intubation in a Patient with Knist Dysplasia	五代 幸平	麻酔科
93 British Journal of Anaesthesia.2012 Aug;109(2):216-218	Three cases of suspected sugammadex-induced hypersensitivity reactions	五代 幸平	麻酔科
94 Journal of Anesthesia.2013 Apr;27(2):306-308	Increased carboxyhemoglobin level during liver resection with inflow occlusion	五代 幸平	麻酔科
95 日本小児外科学会雑誌 2012 Oct;48(6):944-947	Coin lesionを呈した肺炎症性偽腫瘍の1例	山下 達也	小児外科
96 日本小児外科学会雑誌 48(5).849-853.2012-8	慢性中腸捻転症を伴った年長児腸回転異常症の2例	山田 和歌	小児外科
97 日本臨床外科学会雑誌 2012 Sep;73(9):2409-2414	原発性腹膜腺扁平上皮癌の1例	山下 達也	小児外科

小計 14

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
98	日本小児血液・がん学会雑誌 50(2):263-268.2013	右心房まで進展した馬蹄腎原発Wilms腫瘍Stage IVの治療経験	野村 美緒子	小児外科
99	日本小児外科学会雑誌 49(1):2013.Feb	片側付属器切除術、卵巣腫瘍切除後に対側正常卵巣捻転を発症した2例	右田 美里	小児外科
100	日本小児外科学会雑誌 49(1):2013.Feb	第49回日本小児外科学会学術集会特別シンポジウム 大規模災害時に求められるこどものケア	松藤 凡	小児外科
101	Nutrition. 2012 Sep;28(9):849-50.	What kind of polyunsaturated fatty acid should we eat to stay healthy?	Inui Akio	心身医療科
102	Curr Pharm Des. 2012;18(31):4747-4748.	A new horizon of herbal medicines in anorexia-cachexia syndrome.	Inui Akio	心身医療科
103	Nutrients. 2012 Aug;4(8):967-89.	The role of ghrelin, salivary secretions, and dental care in eating disorders.	Yagi T	心身医療科
104	Nutrition. 2013 Jan;29(1):203-6.	The role of adiponectin multimers in anorexia nervosa.	Amitani Haruka	心身医療科
105	Int J Biometeorol 2012 Sep ; 56(5) : 933-9	Acute effects of a single warm-water bath on serum adiponectin and leptin levels in healthy men: a pilot study.	Shimodozono M	リハビリテーション科
106	Neurorehabil Neural Repair 2013 May ; 27(4) : 296-305	Benefits of a repetitive facilitative exercise program for the upper paretic extremity after subacute stroke: a randomized controlled trial.	Shimodozono M	リハビリテーション科
107	J of Oral and Maxillofacial Surgery,Medicine and Pathology.2012 Aug; 24:180-183	Myofibroblastoma of the tongue:a case report with immunohistochemical findings	Hamada T	口腔外科
108	Cancer.2012 Nov;118(21):5251-64	DF-3 epitope expression on MUC1 mucin is associated with tumor aggressiveness,subsequent lymph node metastasis,and poor prognosis in patients with oral squamous cell carcinoma.	Hamada T	口腔外科
109	歯科薬物療法31(1):1- 6,2012	義歯床材料表面における口腔化粧品(オーラルバランスジェル)の抗真菌効果	上川善昭	口腔外科
110	Oncology Letters. 2012 May ; 3(5): 995-1001	Analysis of the outcome of concurrent neoadjuvant chemoradiotherapy with S-1 compared to super-selective intra-arterial infusion for oral squamous cell carcinoma.	Miyawaki A	口腔顎顔面外科
111	J Cranio-Maxillofac Surg. 2012 Oct ; 40(7): 559- 567	Three-dimensional analyses of facial soft tissue configuration of Japanese females with jaw deformity - A trial of polygonal view of facial soft tissue deformity in orthognathic patients-	Shimomatsu K	口腔顎顔面外科

小計 14

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
112	Implant Dentistry. 2012 Dec ; 21(6): 528-535	Topographic analysis of maxillary premolars and molars and maxillary sinus using cone beam computed tomography.	Yoshimine S	口腔顎顔面外科
113	Biochemical and Biophysical Research Communications (BBRC). 2013 Jan ; 430(3): 889-894	The transcription factor Snail enhanced the degradation of E-cadherin and desmoglein 2 in oral squamous cell carcinoma cells.	Kume K	口腔顎顔面外科
114	Open Journal Pathology. 2013 Jan ; 3(1): 1-6	Newly developed endotoxin measurement method (Endotoxin Activity Assay) may reflect the severity of sepsis.	Ishihata K	口腔顎顔面外科
115	Current Pharmaceutical Design. 2012 Oct ; 18(31): 4865-4888.	Cachexia and herbal medicine: perspective.	Suzuki H	口腔顎顔面外科
116	Cleft Lip and Palate: Etiology, Surgery & Repair and Sociopsychological Consequences. 2013; 145-158	A trial for characterizing velopharyngeal closure insufficiency under various oral pressure conditions in cleft palate.	Ogata Y	口腔顎顔面外科
117	日本顎関節学会雑誌 24(1): 22-27 (2012. 08)	当科における過去10年間の顎関節症患者の後向き調査による臨床統計的検討。	中村 康典	口腔顎顔面外科
118	日本口腔外科学会雑誌 58(9): 526-530, (2012. 09)	上唇に発生した腺房細胞癌の2例。	久米 健一	口腔顎顔面外科
119	日本口腔外科学会雑誌 58(12):728-732, (2012. 12)	腎透析患者の上顎歯槽部に生じた異所性石灰化の1例。	宮脇 昭彦	口腔顎顔面外科
120	Health Educ. J. 2012; 71(5): 576-589	Combined use of self-efficacy scale for oral health behaviour and oral health questionnaire: a pilot study.	Soutome S	口腔保健科
121	Orthodontic Waves 2012 Sep; 71(3): 79-84	Relationship between occlusal curvatures and bite force in humans.	Sakaguchi K	矯正歯科
122	Mol Oral Microbiol 2012 Apr; 27(2): 124-135.	Association of CiaRH with the resistance of Streptococcus mutans against antimicrobial peptides in biofilm.	Mazda Y	矯正歯科
123	Angle Orthod 2013 Jan; 83(1): 36-42.	Relationships between the root-crown ratio and the loss of occlusal contact and high mandibular plane angle in patients with open bite.	Uehara S	矯正歯科
124	Archives of Oral Biology.2012 Mar;57(3):307-313	Association between mouth opening and upper body movement with intake of different-size food pieces during eating.	Inada E	小児歯科

小計 13

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
125 Journal of Cranio-mandibular Practice.2012 Jan;30(1):41-51	Comparison of Normal Permanent and Primary Dentition Sagittal Tooth-Crown Inclinations of Japanese Females.	Inada E	小児歯科
126 Am J Orthod Dentofacial Orthop.2013 Feb;143(2):235-245	Tongue posture improvement and pharyngeal airway enlargement as secondary effects of rapid maxillary expansion: A cone-beam computed tomography study.	Iwasaki T	小児歯科
127 Journal of Cranio-mandibular Practice	Smoothness of Molar Movement during Gum Chewing in Children with Primary Dentition.	Yamada-Ito C	小児歯科
128 Appl. Environ. Microbiol.2013 Mar;79(5):1436-1443	Involvement of Dpr, Sod and AhpCF in resistance to hydrogen peroxide produced by Streptococcus sanguis and PerR association with their factors in Streptococcus mutans.	Fujishima K	保存科
129 Pathogenesis and Treatment of periodontitis.145-156	Japanese apricot (Ume):A novel therapeutic approach for the treatment of periodontitis	Morimoto- Yamashita Y	保存科
130 日本歯内療法学会雑誌 33(3):180-185.2012.9	嚢胞摘出後に穿孔部をMTAで封鎖した1症例	梶原 武弘	保存科
131 Medical Hypothesis. 2012 Oct;79(4):452-455	Periodontal diseases and type 2 diabetes mellitus: is HMGB1-RAGE axis the missing link?	Morimoto- Yamashita Y	保存科
132 J Endod.2012;38(6)786- 790	Anandamide induces matrix metalloproteinase-2 production through cannabinoid-1 receptor and transient receptor potential vanilloid-1 in human dental pulp cells in culture	Miyashita K	保存科
133 J Endod. 2012 Jul;38(7):931-935	Hyperosmotic stress induces cell death in an odontoblast-lineage cell line	Fujisawa M	保存科
134 Dent Mater J.2012;31(5):797-805	Development of surface coating material for discolored tooth equipped with bleaching effect	Emoto M	保存科
135 Oral Surgery, Oral Medicine, Oral Pathology, Oral Radiology. 2012 Au g	Bone formation using $\beta$ -tricalcium phosphate/carboxymethyl-chitin composite scaffold in rat calvarial defects.	Taniyama K	歯周病科
136 J Clinical Periodontol. 2012 May 39(5),417-424	Detection of Fusobacterium nucleatum in chorionic tissues of high-risk pregnant women	Tateishi F	歯周病科
137 Eur J Oral Sci 2012 Dec; 120(6): 513-519	Enamel matrix derivative induces production of vascular endothelial cell growth factor in human gingival fibroblasts	Sakoda K	歯周病科
138 Oral Surgery, Oral Medicine, Oral Pathology, Oral Radiology. 2012 114:35-42	Effect of bone swaging with calcium phosphate bone cement on periodontal regeneration in dogs	Shirakata Y	歯周病科

小計 14

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
139 J Periodontal Res. 2013 Feb;48(1):37-43	Effects of EMD in combination with bone swaging and calcium phosphate bone cement on periodontal regeneration in one-wall intrabony defects in dogs	Shirakata Y	歯周病科
140 The Journal of Prosthetic dentistry . 2012 Aug; 108(2) : 69-73	Twelve-year results of a direct-bonded partial prosthesis in a patient with advanced periodontitis: A clinical report.	Minami H	冠・ブリッジ科
141 The Journal of Prosthodontic Res. 2013 Jan; 57(1) : 46-50	A comparison of stress relaxation in temporary and permanent luting cements.	Kadokawa A	冠・ブリッジ科
142 Gerodontology 2012 Jun; 29: e259-e266.	Examination of denture-cleaning methods based on the quantity of microorganisms adhering to a denture.	Nishi Y	義歯補綴科
143 Gerodontology 2012 Dec; DOI: 10.1111 /ger.12027.	Survival of microorganisms on complete dentures following ultrasonic cleaning combined with immersion in peroxide-based cleanser solution.	Nishi Y	義歯補綴科
144 Gerodontology 2013 Feb; DOI: 10.1111/ger.12008.	Comparison of a saliva wetness tester and a moisture-checking device in patients with maxillary obturator prostheses.	Murakami M	義歯補綴科
145 Free Radical Research. 2012 August; 46(8): 1029-1043	Roles of mitochondria-generated reactive oxygen species on X-ray-induced apoptosis in a human hepatocellular carcinoma cell line, HLE.	Indo HP	顎顔面放射線学
146 RSC advances. 2013; 3(14): 4535-4538	Comparison of in vivo and in vitro antioxidative parameters for eleven food factors.	Indo HP	顎顔面放射線学
147 Anesthesia Analgesia 2012 Jan; 115: 212-213	The Parker Flex-Tip tube prevents subglottic impingement on the tracheal wall during nasotracheal intubation.	Sugiyama K	歯科麻酔科
148 Pediatric Anesthesia 2012 Dec: 22(12); 1191-1196	Unrecognized bronchial intubation associated with the uncuffed pediatric tracheal tube with bilateral Murphy eyes.	Sugiyama K	歯科麻酔科
149 Cerebral Cortex. 22(12):2840-2857 (2012.12)	A morphological analysis of thalamocortical axon fibers of rat posterior thalamic nuclei: A single neuron tracing study with viral vectors.	Ohno S	歯科麻酔科
150 Paediatr Anaesth 2013 (in press). (IF 2.100)	Features of lateral cephalograms associated with difficult laryngoscopy in Japanese children undergoing oral and maxillofacial surgery	Kohjitani A	歯科麻酔科
151 Hypertens Res 2012Feb 35(2)166-72	Responses of the second derivative of the finger photoplethysmogram indices and hemodynamic parameters to anesthesia induction	Kohjitani A	歯科麻酔科
152 Journal of Infection and Chemotherapy. 2012 Apr; 18:269-271	Reduction in the incidence of MRSA with use of alcohol-based hand rub solutions and gloves	Kazuaki Matsumoto	薬剤部

小計 14

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
153 Journal of Infection and Chemotherapy. 2012 Dec; 18:878-882	Pharmacokinetics of ampicillin-sulbactam and the renal function-based optimization of dosing regimens for prophylaxis in patients undergoing cardiovascular surgery	Yasuo Takeda	薬剤部
154 Journal of Pharmacy and Pharmacology. 2013 Jan; 65(1):102-114	Aminophylline, administered at usual doses for rodents in pharmacological studies, induces hippocampal neuronal cell injury under low tidal volume hypoxic conditions in guinea-pigs	Tomoko Somekawa-Kondo	薬剤部
155 American Journal of Health-System Pharmacy. 2012 Sep;69(17):1509-1512	Stability of infliximab in polyvinyl chloride bags	Ryuji Ikeda	薬剤部
156 Oncology Reports. 2012 Sep; 28(3):895-902	Thymidine phosphorylase enhances reactive oxygen species generation and interleukin-8 expression in human cancer cells	Yasuo Takeda	薬剤部
157 医療情報学連合大会論文集 2012 Nov;32:1036-1039	鹿児島大学病院における持ち込みDICOM画像管理システムの運用実績の評価	村永 文学	医療情報部
158 医療情報学連合大会論文集 2012 Nov; 32:80-83	病院経営改善の推進力となった外来運用見直しの検証 鹿児島大学病院を中心とする二次医療圏の患者の流れと外来診療内容の変化	宇都 由美子	医療情報部
159 医療情報学連合大会論文集 2012 Nov;32:340-343	医学管理料算定支援システムの限界とその機能向上のための要因分析に関する研究	岩穴口 孝	医療情報部
160 医療情報学連合大会論文集 2012 Nov;316-319	指示のシステム化に不可欠な業務フローと用語の標準化 処方オーダと処方指示のシステム間齟齬とその解決のプロセス	鳥越 千秋	医療情報部
161 日本医療情報学会看護学術大会論文集 2012 Aug;118-121	指示のシステム化に不可欠な業務フローと用語の標準化 処方(内服・外用薬)指示システム構築	鳥越 千秋	医療情報部
162 日本医療情報学会看護学術大会論文集 2012 Aug;114-117	医学管理料算定支援システム導入後の更なる適正化に必要なシステム対応の再検証	岩穴口 孝	医療情報部
163 日本医療情報学会看護学術大会論文集 2012 Aug;80-83	病院経営改善の推進力となった外来運用見直しの検証 鹿児島大学病院を中心とする患者の流れと外来診療内容の変化	宇都 由美子	医療情報部

計 163



診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 熊本 一朗	
管理担当者氏名	各診療部門科長	薬剤部長 武田 泰生
	看護部長 向窪 世知子	臨床技術部長 池田 睦
	総務課長 島森 俊光	医務課長 上蘭 和郎

	保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	総務課 薬剤部 各診療部門科 放射線部 診療情報管理室	(1) 電子化後は 1 患者 1 記録となり ID 番号で分類 (2) エックス線フィルムの管理保存 ① CT、MRI、RI、のエックス線フィルムについては放射線部で管理し保存している。 ② その他のエックス線フィルムは、各診療部門科で管理し保存している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務課
	高度の医療の提供の実績	医務課
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務課
	高度の医療の研修の実績	総務課
	閲覧実績	総務課
	紹介患者に対する医療提供の実績	医務課
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医務課 薬剤部
第規一則号第一に掲げる十一の体制第一項各号の状況及び第九條の二十三第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医務課
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医務課
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医務課
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医務課
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	総務課
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務課
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療環境安全部
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医務課

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一條の十一第一項各号及び第九條の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	医務課
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医務課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医務課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医務課
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	臨床技術部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床技術部
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床技術部	
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床技術部	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 熊本 一朗
閲覧担当者氏名	総務課長 島森 俊光
閲覧の求めに応じる場所	総務課

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	87.2%	算定期間	平成24年 4月 1日～平成25年 3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数		12,869人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		13,250人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		403人
	D: 初診の患者の数		17,175人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。



(様式第 13-2)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>(1) 趣旨</li><li>(2) 安全管理に関する基本的考え方</li><li>(3) 組織に関する基本的事項</li><li>(4) 医療に係る安全管理のための職員研修に関する基本方針</li><li>(5) 事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針</li><li>(6) 医療事故等発生時の対応に関する基本方針</li><li>(7) 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針</li><li>(8) 患者等からの相談への対応に関する基本方針</li><li>(9) その他医療安全の推進のために必要な基本方針</li></ol>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>(1) 医療の安全管理体制の確保に関すること</li><li>(2) 医療に関する安全管理指針に関すること</li><li>(3) 医療事故等の防止対策の検討及び推進に関すること</li><li>(4) 医療の安全管理のための教育及び研修に関すること</li><li>(5) その他医療の安全管理等に関すること</li></ol>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 1 7 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>第 1 回 「安全な医療のために私たちは何をすべきか？」 (90分)</p> <p>第 2 回 「平成 23 年度インシデント分析結果報告及び、平成 24 年度重点項目への取り組みについて」 (30分)</p> <p>第 3 回 「救急センターやストレスセンターでの介入について」 (60分)</p> <p>第 4 回 「輸血と医療安全」 (30分)</p> <p>第 5 回 「検査に関する研修会」 (60分)</p> <p>第 6 回 「(シンポジウム) 鹿児島大学病院における急変時対応」 (90分)</p> <p>第 7 回 「人工呼吸器・除細動器について」 (30分)</p> <p>第 8 回 CT・MRI 検査に関する医療安全講習会」 (70分)</p> <p>第 9 回 「BLS 講習会」 (90分)</p> <p>第 10 回 「抗がん剤の処方とレジメン管理」 (30分)</p> <p>第 11 回 「医療安全推進のためにやるべきこと」 (60分)</p> <p>第 12 回 「インシデントを未然に防ぐ影響 0～1 レベルの報告」 (30分)</p> <p>第 13 回 「過去の事例に学ぶ」 (30分)</p> <p>第 14 回 「食物等のアレルギーによるアナフィラキシーに関する研修会」 (90分)</p> <p>第 15 回 「医療機器について」 (30分)</p> <p>第 16 回 「せん妄の評価と対応について」 (30分)</p> <p>第 17 回 「医療ガスについて」 (30分)</p> <p>※ 研修会当日に参加できなかった職員のために、録画DVDの上映による研修会、録画DVDの貸出研修及びe-Learningによる研修を別途実施している。その他に新規採用者・中途採用者向けの研修を実施した。</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有 無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>(1) 医療環境の変化に対応するため、「医療安全管理マニュアル」を毎年度改訂</li><li>(2) 医療安全管理強化月間 (5 月, 1 1 月) を設定</li></ol>	

⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有(2名)・無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有(5名)・無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所属職員： 専任(2)名 兼任(10)名</li> <li>・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 医療安全を確保するための改善方策に関する事</li> <li>(2) 医療安全に係る教育・研修事業の企画及び運営に関する事</li> <li>(3) インシデントの分析に関する事</li> <li>(4) インシデントに関する診療録や看護記録等への記載状況の確認・指導に関する事</li> <li>(5) 患者や家族への説明等の対応状況の確認・指導に関する事</li> <li>(6) 医療安全管理委員会の円滑な運営に関する事</li> <li>(7) 医療安全に係る連絡調整に関する事</li> <li>(8) その他医療安全対策の推進に関する事</li> </ul> </li> </ul>	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有・無

## 院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有 無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>I 趣旨  II 院内感染対策の基本指針  III 組織体制  IV 職員の教育及び研修  V 報告に関する基本方針  VI 対応に関する基本方針  VII その他  VIII 閲覧</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>院内感染制御と患者の安全確保を主な目的として、院内における感染症発生状況を把握し、感染対策に関する事項（原因分析や改善策等）の審議、諸施策を行う。</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 1 0 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>第 1 回 「抗菌薬の適正使用」 (30分)  第 2 回 「アウトブレイク～対応策と予防策を考える～」 (30分)  第 3 回 「人工呼吸器関連肺炎 (VAP) とは？」 「口腔ケアについて」 (30分)  第 4 回 「鹿児島県における HIV 感染症の現状」 (30分)  第 5 回 「長崎大学病院の取組み～感染対策の重要性～」 (60分)  第 6 回 「医療従事者に必要なワクチン ～職業感染予防～」 (30分)  第 7 回 「HIV 診療の均てん化を目指して」 (90分)  第 8 回 「結核？その時あなたは… ～正しい知識と対応で自分と患者を守る～」 (30分)  第 9 回 「過去の事例に学ぶ」 (30分)  第 10 回 「当院での洗浄・消毒・滅菌」 (30分)</p> <p>※ 研修会当日に参加できなかった職員のために、録画DVDの上映による研修会及びe-learningによる研修を実施している。</p> <p>※ 上記研修会の他、以下の者を対象とした研修を別途実施している。</p> <p>* 新規採用者、中途採用者…針刺し・切創対策や廃棄物処理に関する研修  * 初期研修医…感染症診療・標準予防策・手指衛生に関する研修  * 清掃・院内配送等の委託業務従事者…標準予防策、針刺し発生時の対応、環境整備等に関する研修</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有 無)</p> <p>(1) 院内感染発生時に部署から ICT に報告  (2) 注意すべき病原体の検出時に検査部から ICT に報告  (3) 週 1 回検査部から病棟別主要注意菌検出状況をまとめた感染情報レポートを ICT に提出  (4) 重大な感染事例の発生時は ICT から病院長に報告  (5) ICT スタッフ会議、感染症対策委員会において報告  (6) リスクマネージャー連絡会議を通じて院内に周知</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>(1) 院内感染発生状況の調査・とりまとめ・分析  (2) 感染防止対策や感染症診療についての助言・指導</p>	

- (3) 感染対策マニュアルの整備及びICTラウンドによるマニュアル遵守状況の確認
- (4) 院内感染発生時における二次感染防止対策の策定・実施
- (5) 抗菌薬届出制の拡充及び抗菌薬適正使用活動の推進
- (6) 職員の4種ウイルス感染症抗体価確認及びワクチン接種の徹底、特定部署の職員を対象とした定期的クオンティフェロン検査の実施等による職業感染予防対策の強化
- (7) 部署毎の感染対策に関する年間改善目標・計画の設定



(様式第 13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有 無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 7 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1) 新任者対象：薬剤部の業務紹介と医薬品安全管理について&lt;4/4&gt;</li><li>2) 研修医対象：処方せんの書き方と入力・運用について&lt;4/9&gt;</li><li>3) 新任看護師対象：安全の知識：薬剤の基礎とインシデント防止について &lt;4/22&gt;</li><li>4) 全職員対象：抗菌薬の適正使用について&lt;4/24&gt;</li><li>5) 全職員対象：抗がん剤の処方とレジメンオーダについて&lt;9/25&gt;</li><li>6) 新任看護師対象：注射剤の基礎とインシデント防止（医師の指示とその確認）&lt;10/12&gt;</li><li>7) 全職員対象（特に医師）：食物等のアレルギーによるアナフィラキシーとエピペンの使用に際しての注意&lt;H25.1/25&gt;</li></ol>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (有・無)</p> <p>・ 業務の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>(1) 医薬品の採用について</li><li>(2) 医薬品の購入について</li><li>(3) 調剤室における医薬品の管理について</li><li>(4) 病棟における医薬品の管理について</li><li>(5) 外来患者への医薬品使用について</li><li>(6) 入院患者への医薬品使用について…持参薬管理の手順、術前中止薬リスト作成などを行い改訂中（運用は開始）</li></ol>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>アレルギー歴問診票を再検討し、統一化を行った（医療環境安全部と共同）。その内容は電子カルテにスキャンして取り込み、参照できるようにした。</p> <p>院内製剤の調製及び使用に関する指針（日本病院薬剤師会）に沿った院内製剤依頼業務体制とした（倫理的な配慮、安全性の確保）</p> <p>病棟指示システム導入に伴い、持参薬の管理・情報提供・処方支援体制を見直した。</p>	

## 医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
<p>・ 研修の主な内容： 各部門において医療機器の安全管理について適切な取扱い、日常点検方法および業務引き継ぎ時研修を実施し記録している。また、病院全体の医療従事者を対象とした研修として平成25年8月22日（木）に「除細動器の基本操作について」、「人工呼吸器の加温、加湿について」の研修会を行い操作の説明、注意事項等について研修を行った。また、放射線機器のうちCT、MRIの安全使用における院内研修会を平成25年9月3日（火）に行い、造影剤のショック時の対応、磁性体物の危険性等について説明した。平成26年2月に再度、病院全体の医療従事者対象の研修会を予定。</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 計画の策定 (有・無)</p> <p>・ 保守点検の主な内容： 平成25年度初めに医療機器保守点検計画を立て、その後保守点検計画に沿って点検を行っている。各部門において、始業・終業点検、年一回の安全点検等を行っている。また、医療機器管理ソフトを使用して医療機器の貸し出し・返還、動作状況等を管理している。</p>	
① 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容： 医療機器の安全情報収集を独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）、臨床工学技士会、日本診療放射線技師会並びに技術学会等から収集し、必要な情報については医療機器情報管理担当者がリスクマネージャー宛にメール配信している。また病院情報システムからも医療安全情報として閲覧が可能となっている。PMDA情報及び医療事故情報収集等事業報告書等は臨床技術部各部門へ配信し、全員が同じ情報の共有、周知を行っている。さらに、年に複数回の医療機器安全管理検討委員会、医療機器安全管理担当者会議を開催し、検討した結果を病院医療安全管理委員会へ報告し周知している。</p>	